

ペットの幸せとは

二年 村松結菜

「そんなのいやだワン！」や「一緒に遊ぼうニャン！」など子ども向けのテレビで聞いたことはありませんか。犬や猫が日本語を話すなんてテレビの中でしかありえないですよ。でも、もしもあなたが飼っている犬や猫動物たちが日本語を話せるようになったら、「いつもありがとう。」や「幸せだよ。」など言ってもらえる自信はありますか。

私は、おばあちゃんの家でブンタというパグの男の子を飼っています。人には体当りやすく乗っかってきたりと強気ですが、初めて見るカンやペットボトルなどには、すぐにビビってほえ出す、ビビりなヤツです。でもカワイイです。たとえ悪さをしても許してしまうし、おいしそうなおはんを見つければ買ってあげたいと思います。あなたのペットはどんな子ですか。きつとあなたは、ベタぼれしているでしょう。ペットを飼う理由は様々だと思います。動物が好きだから、癒してほしいから、一人ではさみしいから、など人それぞれがう理由だと思います。ですが、「ペットを飼う」ということは、大変なことだし、飼う人には大きな責任が伴います。「飼いたい。」という理由だけではいけないと思います。自分にはペットのごはんやおもちや、ふとんなど必要な物を買えるのか、毎日散歩する時

間・余裕があるか、一生愛せて暮らせるのか、など先の事をしっかり考える必要があると思います。きつと、こんな風に考えて、この作文に書いて、世の中に伝えてるのは私を含めたくさんの人がやっていると思います。「はいはい、お決まりのことね」とこれを読んではあなたはそう思っているはずですが、このお決まりが毎年、毎年書かれているということは、犬や猫を捨てる人や、ひどいことをする人が多くいる証拠だと思います。捨てるのなら飼わなければいい。難しいことでしょうか。自分がその捨てられた動物だったらどう思いますか。「仕方がない。」「しょうがない。」という言い分で簡単に捨てられる、動物の命を軽く見過ぎです。一生愛し暮らせないのなら飼わないでください。捨てられた動物たちが初めから一生愛してくれる飼主に出会っていたら、どれだけ幸せな人生だったのでしょうか。動物に暴力をする人は、どれだけ弱い人間なのでしょう。自分より力も弱く、体の大きさが小さい動物に暴力する、ではもし、力も強く体も大きいライオンだったら「むかついたから。」という理由で同じことはできませんか。自分より弱い動物にしか暴力をしない大人は、ただの弱い者いじめをする小学生の子と変わりませんよ。どれだけ恥ずかしいことでしょうか。

もし、あなたの飼っているペットが日本語を話したら、どんなことを言うでしょうか。ペットの人生はあなたそのものの人生です。今からでも、その人生を変えることはできると思います。あなた次第で。